

# DV・デート DV 予防・防止教育の基準的教授内容の検討及び カリキュラム開発のためのリスト作成

## Study of Standard Teaching Content for DV and Dating Violence Prevention Education and Development of a List for Curriculum Development

渡辺 直人（和歌山信愛女子短期大学）

本研究では、DV・デート DV 予防教育の基準的教育内容を作成することを目的とし、それを基にチェックリストを開発した。方法については 2016 年までに出版された文献を概観し、これまでにどのような教育が行われてきたかを精査・検討した。

結果、2つの大カテゴリーが抽出された。「(1)DV・暴力に関する内容」「(2)予防・防止・支援に関する内容」である。その小カテゴリーとして、(1)では 11 の小カテゴリーが抽出された。(2)では 9 の小カテゴリーが抽出された。

キーワード：DV 予防教、チェックリスト、カリキュラム開発、教育内容

### 1 目的

現在、我が国においては家族やパートナー間での問題が深刻化しており、特に DV の件数が上昇している。DV とは「ドメスティック・バイオレンス」の略称であり、精選版 日本国語大辞典 (2003) によれば、「家庭内暴力。夫婦間暴力。特に、夫や恋人など、親密な関係にある男性から女性への暴力をいう。」と定義されている。DV はおおむね「身体的暴力」「精神的暴力」「経済的暴力」「社会的暴力」「性的暴力」「子どもを利用した暴力」(八尾市 2022) に分類される。

#### 暴力の種類

身体的暴力：なぐる、ける、首をしめる、髪をひっぱる、突き飛ばす、物を投げつけるなど

精神的暴力：暴言を吐く、怒鳴る、無視する、人前で恥をかかせる、殴るふりや物を投げつけるふりをするなど

経済的暴力：高価なプレゼントを要求する、生活費を渡さない、借金をさせるなど

社会的暴力：友人や親族などの交友関係を制限する、メールの内容などを監視する、外出を禁止するなど  
性的暴力：意思に反した性行為を強要する、暴力的な性行為をする、避妊に協力しない、中絶を強要するなど

子どもを利用した暴力：子どもに暴力をみせる、子どもを取り上げる、子どもの前で非難・中傷することを言うなど (八尾市 2022 より引用)

これらに関する昨今の調査データを概観すると、例えば内閣府男女共同参画局 (2019) の「配偶者からの暴力に関するデータ」によれば、配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数は H28, H29 は H14 年以降初めて減少していることがわかる。しかしながら、翌年 H30 年には過去最高の相談件数 75,964 件であった。警察庁の調査でも類似した傾向がみられ、内閣府調査と同様相談件数は H30 年が過去最高 77,482 件であった。

また、新型コロナウイルス蔓延渦の現在ではテレワークが働き方の一つとなっている。そのような中で、夫婦が家庭にいる時間が増え、接触の時間が増えたことから DV

の増加が懸念されている。実際に、内閣府による新型コロナウイルス感染拡大前後の生活満足度を比較した調査によれば、男性も女性も満足度は低下しており、さらに女性の満足度の低下は男性よりも減少幅は大きいことが示されている。内閣府（2020）は同調査において、以下の考察を示している。

テレワーク等の働き方の変化や外出自粛等の感染症の影響により、子育て世帯の70.3%が家族と過ごす時間が増加した。家族と過ごした時間の増加と子育てのしやすさ満足度の関係を見ると、男女で異なる結果が見られる。男性の場合は家族と過ごす時間が増加した方が子育て満足度の低下幅が小さい。一方、女性では、家族と過ごす時間が増えた方が満足度の低下幅が大きくなっている。生活全体の満足度との関係においても、同様の傾向がみられる。（内閣府 2020 p.104 より引用）

この現状に対して、NPO 法人アジア女性センター（2021）は「家庭内でやることで増えた育児や介護の作業については、旧来の性別役割分業を当たり前とする発想のまま、在宅ワークで仕事を抱える女性にのしかかっている現状がうかがえます。」と示している。

このように、DV は未だ深刻化し続けている喫緊の課題であり、早急な対応策が望まれるといえよう。

そのような中、昨今では予防・未然防止の取り組みが一層重視されてきている。例えば千葉県（2021）の調査においては、「DV、デート DV を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。」と尋ねたところ、「学校・または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力がいけないことを教える」と答えた者が最も多かったことを報告している。

昨今では予防教育の取り組みも行われてきており、「(デート) DV 予防教育」という名称で行われている。この予防教育について、現在では市民団体が積極的に活動している様子が多々見受けられる。主に学校教育機関等で行われており、出前講座として市民団体を招き講座を開くなどの実践報告も見受けられる。

このような市民団体に関して、代表的なところを紹介すると「特定非営利活動法人デートDV防止全国ネットワーク」や「アウェア」等があげられる。デートDV防止全国

ネットワークが運営しているホームページ「NotAlone」では、DV・デート DV に関わる支援を行う全国の団体を紹介している。そのうち重複している団体を除いてカウントすると、123 ほどの団体が全国に存在し、それらが、DV・デート DV 予防・防止教育や被害者支援を行っている。

しかし、この DV・デート DV 予防・防止教育の語義・名称は曖昧であり、DV 予防教育、もしくはデート DV 予防教育、もしくは DV 防止教育、デート DV 防止教育等と呼ばれることがあり、今ではデート DV 予防教育という呼び方が多くなっている。この呼称はアウェア代表の山口の子が提唱した言葉である。なお、DV 予防教育とデート DV 予防教育の明確な違いは示されていない。

デート DV 予防教育は草の根的に広がりを見せ、上述したように民間・学校関係者により実践されているところである。しかしながら、これらに関する模範的で柱となる基準がない。例えば、小学校・中学校・高校であれば、文部科学省から「学習指導要領」が定められており、最低限の教育内容が示されている。また、家族に関する教育の一つに「家族心理教育」がある。この教育に関しても同様に基準とするテキストが存在する。一方でデート DV 予防教育についてはそのような要綱は存在しない。

また、指導者用テキストや教育案を一般向けに公開しているところ（例えば、長崎県など）もあるが、どういった検討を経て教育内容を設定しているのかは不明である。学術的価値を付加させるためにも、経験則のみに留まらず、検討を踏まえた教育内容を設定することが望まれ、これらを経ることにより DV・デート DV 予防教育の発展につながるだろう。以上、本研究では DV・デート DV 予防教育の基準的指導要綱を作成することを目的とする。なお、本報では第一報として、まずは教授内容の範囲の検討及びチェックリストを開発する。

## 2 方法

DV・デート DV 予防教育に関する文献検討を行った。具体的には、論文検索サイトの「Cinii Article」を利用し、2017 年までに発刊された DV・デート DV の予防・防止教育、取り組みに関する文献を収集した。該当論文は 29 編であった。最も古い文献の発行年は 2005 年であった。年代別の出版数を確認したところ、2005 年は 4 編、2006 年は

表1 先行研究一覧 (「DV 教育」で検索した結果)

著者	タイトル	出版元
須賀 朋子	中学生のためのデート DV 予防教育	日本教育保健学会年報 (22), 21-28, 2014
山田 富士子, 武田 和枝, 阿部 伸子	高等学校性教育にデート DV に関する内容を取り入れた取り組みの報告	日本性科学会雑誌 30(1・2), 69-78, 2012
堤 かなめ, 横山 美 栄子	実践的研究 ドメスティック・バイオレンス(DV)に関する日本の現状と DV 教育の必要性--小学校社会科における DV 防止プログラム導入の提案	アジア女性研究 (14), 63-71, 2005
新谷 仁奈子	高校実践(必修) 家族が抱える問題を学んで: DV を学ぶことから見える生徒の姿・本音	家教連家庭科研究 (303), 52-57, 2012
佐藤 郁子	首長部局、奉仕団体、学校教育、社会教育の協働・連携における「高校生から始めるデート DV 根絶ワークショップ」(特集 学びの循環をつくる: 学習なくして活躍なし)	社会教育 71(4), 39-45, 2016
矢代 幸子	学校でのとりくみ 「デート DV」未然防止へのとりくみ(特集 性暴力と教育の課題)	教育 59(12), 33-40, 2009
田嶋 真広	高校における「ジェンダー、デート DV、セクシャル・マイノリティー」の授業	歴史地理教育 (813), 38-41, 2013
富安 俊子, 梶原 恭 子, 大町 福美, 深川 ゆかり, 高田 昌代	ドメスティック・バイオレンス (DV) 授業における看護学生の学び	母性衛生 46(3), 212, 2005
中田 慶子	特別寄稿 デート DV を知っていますか?--若者たちのデート DV と防止教育について	助産雑誌 61(1), 54-59, 2007
下敷領 須美子	大学生・高校生を対象としたデート DV 予防教育	思春期学 28(2), 214-220, 2010
安本 理子, 成田 厚 子	若年層の DV 防止啓発にフェミニストカウンセリングの視点は有効か--デート DV 出前講座の実践から	フェミニストカウンセリング研究 8, 25-35, 2009
山口 のり子	安全で対等な関係を学ぶ: デート DV 防止教育の必要性	Sexuality (19), 94-101, 2005
徳永 桂子	愛=束縛? デート DV 防止にむけて	セクシュアリティ (45), 144-153, 2010
中島 幸子	学校現場で DV 防止教育は可能か?--全員が知識をもちサポートを(特集 それってデート DV!? 気づきと防止のために)	セクシュアリティ (32), 22-27, 2007
甲斐 あんな 後藤 恵美	高等学校性と暴力の問題を考える--デート DV ジェンダーで考える教育の現在(いま)(第 13 回)デート DV 防止教育	セクシュアリティ (25), 106-117, 2006 ヒューマンライツ (238), 48-53, 2008
矢代 幸子	デート DV 防止教育に取り組む--「自分らしく生きること」の大切さを伝えたい(「品格」ブームって何?)--(適応よりも変革を)	女も男も (110), 81-87, 2007
今村 利香	DV 問題に関する看護師教育・研修体制の充実を図るための研究--2006 年度調査を基に	日本看護学会論文集 看護総合 39, 167-169, 2008
植田 由紀子, 安東 由則	高校生のデート DV に関する実態調査の分析--予防教育活動の実践から	臨床教育学研究 (16), 65-86, 2010
高田 昌代, 友田 尋 子	わが国の看護職教育における DV に関する教育の実態と教員意識調査	日本助産学会誌 18 (3), 144-145, 2005
須賀 朋子	話題提供 初年次教育におけるデート DV 予防教育の提案(全体テーマ「魅力的な学上課程教育の構築に向けて」)--(第三分科会 高大接続・初年次教育・キャリア教育)	東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究集録 65, 91-94, 2015
下敷領 須美子	鹿児島大学の男女共同参画 デート DV 予防に向けた「ピア☆びあ☆かごしま」の活動	鹿児島大学生涯学習教育研究センター年報 (8), 46-56, 2011
山本 直子	WYSH 教育としてのデート DV 予防指導の効果: 県作成の DVD を用いた展開によるエイズ・性感染症の知識の向上を手掛かりとして	日本教育保健学会年報 (22), 11-19, 2014
富安 俊子, 鈴井 江 三子	青年期男女に対するデートバイオレンス防止教育モデルの構築: 授業前後の暴力認識調査から	母性衛生 53(3), 234, 2012
須賀 朋子	理系高校生の DV、デート DV についての知識	日本教育保健学会年報 (23), 65-70, 2015
NPO 法人 ウィメ ンズネット・こうべ	デート DV の現状と防止教育	部落解放 -(662), 82-85, 2012
中田 慶子	デート DV 防止教育	子どもの心と学校臨床 (8), 95-105, 2013
風味 良美, 松村 徳 子	「デート DV 防止・DV 予防教育」出前講座: 「すてきな恋をするために: デート DV ってなに?」に取り組んで	フェミニストカウンセリング研究 12, 37-41, 2014
上村 茂仁	メール相談からみたデート DV の現状: 被害者、加害者からのメールから	母性衛生 49(3), 278, 2008

1編、2007年は3編、2008年は3編、2009年は2編、2010年は3編、2011年は1編、2012年は4編、2013年は2編、2014年は3編、2015年は2編、2016年は1編であった。

該当した文献を表1に示す。これらを概観し、紹介されている教育内容を抽出後、リストアップしグルーピングを行った。ただし、非科学的、または極端な内容は筆者の視点に基づき削除した。内容の名目もふさわしくないものにおいては適した語句に変更した。

### 3 結果

DVの基準的教育内容の作成のため、先行研究29編を概観した。紹介されている教育内容をリストアップし、それらをグルーピングした結果、2つの大カテゴリーが抽出された。「(1)DV・暴力に関する内容」「(2)予防・防止・支援に関する内容」である。

その小カテゴリーとして、(1)では11の小カテゴリーが抽出された。「①DV・暴力の概要」「②DVの調査データ」「③法制度(通報義務等)」「④暴力の種類」「⑤暴力の影響(トラウマ、複雑性PTSD、薬物中毒、その他心理・社会的影響)」「⑥DV神話」「⑦暴力の特徴」「⑧暴力のサイクル」「⑨DV・暴力の発生要因」「⑩加害者・被害者心理」「⑪DVの兆候・前兆・サイン」である。

(2)では、9の小カテゴリーが抽出された。「①未然防止の取り組み(アサーショントレーニング、自己・他者尊重等)」「②DVが起きた場合のHowto(被害者・加害者・第三者として)」「③避妊の重要性 妊娠のリスク」「④DV被害者の回復」「⑤外的資源の存在(シェルターや被害者援助サービスの説明とその利用方法)」「⑥子育て支援システムの重要性」「⑦援助をする/援助を求める際の障害」「⑧支援方法(ピア・サポート、心理教育等)」「⑨加害者の予後」である。

また、これらを基に教育カリキュラムの作成のための一資料としてのチェックリストを開発した(表2)。

体裁として、情報過多で負担にならぬよう、そして早見表としての役割も含まれるよう、A4用紙1枚で見ることが出来るチェックリストのデザイン構成を定めた。

また、内容のみならず手法にも着目できるよう講義方法の欄を設けた。講義方法に関しては、授業方法の番号を選

ぶ方式とした。内容は「①一斉講義」「②話し合い活動」「③問題解決学習」「④ジグソー学習」「⑤役割演技(SST含む)」「⑥フィールドワーク」「⑦ゼミナール」「⑧ケーススタディ」「⑨ディベート」「⑩プレゼンテーション」「その他」とした。

### 4 考察

本稿では、DV・デートDV予防教育の実施に際しての明確な教育内容の基準を作成することを目的に、過去の論文を収集し、文献検討を通して教育内容の整理を行った。整理された内容を基に、教育カリキュラム作成の一資料としてのチェックリストを開発した。

その結果、大カテゴリーが2つ「(1)DV・暴力に関する内容」「(2)予防・防止・支援に関する内容」小カテゴリーが、(1)が10と、(2)が8つ抽出された。

これまで取り組まれた上記の内容に関しては検討する余地が多い。分析結果を概観しても、家族関係・家族心理といった家族に関する学びはほとんどない。

家族に対する学びに関しては、例えば家庭科教育においては取り組まれづらいとの報告もあり、倫理的な指導不安が存在しているという(片田江2014)。様々な家族形態が増えているなかで、その枠に該当しない、もしくは多数派ではない児童生徒に対する配慮の難しさが、背景にはあると考えられている。しかしながら、将来的なDVの防止を想定しているのであれば、十分な配慮をした上での家族に関する学びは意義のあるものになると考える。

次に、授業実施の際の留意点を述べたい。予防教育やDV啓発に関する資料を探っている中で、ジェンダーに関して望ましくない表現・文言が用いられていた例がいくつか見受けられた。例えば、極端に男性を悪であるかのように示す内容もしばしば見受けられる。本チェックリストを基に授業を実施する際は、表現は検討しなければならないだろう。確かに男性が加害となるケースは圧倒的であるのは、統計データをみても明白なことである。だが、すべての男性がそのようなわけではなく、女性によるDVも少なからず存在する。さらに今回検討・策定した教育内容は、予防・防止教育としての位置づけであり、加害者教育ではない。はじめから男性に対し反省を求める弁になってはならず、授業実施の際には最大限の留意が必要である。

表2 DV・デートDV 予防教育 カリキュラム開発チェックリスト

DV・デートDV 予防教育 カリキュラム開発チェックリスト						
講義内容		✓	何限目	教授法 (複数可) ①一斉講義 ③問題解決学習 ⑤役割演技 (SST 含む) ⑦ゼミナール ⑨ディベート その他	②話し合い活動 ④ジグソー学習 ⑥フィールドワーク ⑧ケーススタディ ⑩プレゼンテーション	資料の有無 PowerPoint 紙資料 その他
DV・暴力に関する内容	DV・暴力の概要 (DVではどのようなことが起きるか)	<input type="checkbox"/>				
	DVの調査データ	<input type="checkbox"/>				
	法制度・通報義務	<input type="checkbox"/>				
	暴力の種類	<input type="checkbox"/>				
	暴力の影響 (トラウマ、複雑性PTSD、薬物中毒、心理・社会的影響)	<input type="checkbox"/>				
	DV神話 (DVに関する誤った認識)	<input type="checkbox"/>				
	暴力の特徴 (誰もが起こりうること、周囲からは気づかれにくさ、パワーとコントロール、社会的に容認されている状況 (ジェンダー観))	<input type="checkbox"/>				
	暴力のサイクル	<input type="checkbox"/>				
	DV・暴力の発生要因 ジェンダーバイアス、男女格差社会、アルコール	<input type="checkbox"/>				
	加害者・被害者心理	<input type="checkbox"/>				
	DVの兆候・前兆・サイン	<input type="checkbox"/>				
加害者・被害者のその後 (予後)	<input type="checkbox"/>					
予防・防止・支援に関する内容	未然防止の取り組み (アサーショントレーニング、自己・他者の尊重等)	<input type="checkbox"/>				
	DVが起きた場合の How to (被害者・加害者・第三者として)	<input type="checkbox"/>				
	避妊の重要性 妊娠のリスク	<input type="checkbox"/>				
	外的資源の存在 (シェルターや被害者支援サービスの説明とその利用方法等)	<input type="checkbox"/>				
	子育て支援システムの重要性	<input type="checkbox"/>				
	援助をする/援助を求める際の障害	<input type="checkbox"/>				
支援方法に関する内容 (DV 渦中、DV 後)	<input type="checkbox"/>					

また、先行研究では暴力の発生要因の重要性を指摘している論考も存在した。ただし、暴力の発生要因に関しては未だに明確な答えがないのが昨今のDV研究の現状である。暴力は日常の様々な文脈に依存することからも、それを誘発する感情が引き起こされるその理由を一元化することは

できないでいる。より目立つ誘発要因として、ジェンダーバイアス及び、アルコールやドラッグなどが暴力の一因であると説明しているものもあり、確かに一因として因果関係が有意に認められようが、それがすべての事案に該当するとは言い難い。

ハインリッヒの法則では、「1 件の重大事故発生の陰で、29 件の小規模な事故、300 件の異常(ヒヤリ・ハット経験)が起きている」といわれる。また、伊田 (2018) は「ふつう」と思っている恋愛の中に潜む DV の芽にも着目すべきであると述べている。このような、表面上問題とならない、裏に潜む小さな DV というものを考えていくと、家族・パートナー間の「感情表出」に着目できるのではないだろうか。

この点で参考になる教育として、家族心理教育が挙げられる。この教育では、感情表出 (EE) の測定尺度が、心理教育の有用性を示すエビデンスとして使用されている。ただし、家族心理教育は医療的要素が強く、青少年対象の、且つ予防・未然防止を目的とした DV 予防教育とは質が異なるため、この教育をそのまま導入することは難しいだろう。だが、DV 予防教育で暴力についてのカリキュラムを考えていく際は参考になるのではないだろうか。

その他、本研究では教育内容の抽出を行ったが、実際の指導場面における検討は、本研究の目的と様相が異なるため行っていない。これに関しては次報で検討を行い、そして実際の指導場面における教材開発を試みたい。最後には、学習指導要領のような指導に当たっての格子となるルールブック・基準的指導要綱を作成したいと考える。

また、チェックリストにおける教授方法に関しては暫定的に定めた。だが、新型コロナウイルス蔓延における昨今の教育情勢を鑑みるに、オンラインでの授業も増えている昨今において、授業方法は多様であるといえる。教材開発の際には、教育方法も考慮の上で検討を行う必要があるだろう。

最後に、本研究では先行研究の教育内容を基に範囲を検討・策定した。すなわち、先行研究で示されていない内容は本研究の対象外ということである。現在では、家庭科家族教育、家族心理教育、家族生活教育等、様々な参考となる教育が存在する。よりよい「家族・パートナー間の関係教育」を進めていくためには、今後は裾野を広げ、互いに協力していく姿勢が求められてくると考える。

## 5 おわりに

本研究では、DV・デート DV 予防・防止教育の先行研究から、範囲の策定とチェックリストの開発を行った。た

だし、教育内容は時代を追うごとに変化するものであると考える。その時々で状況で、求められてくる内容も異なるであろう。今後も深く検討を行い、定期的に改訂を要するものであると考える。

## 参考文献

- 伊田広行 (2018) 『シングル単位思考法でわかるデート DV 予防学』 かもがわ出版
- NPO 法人アジア女性センター (2021) 「<寄稿>コロナ下の家庭の中で～DV 相談からみえてくるもの～」 <https://www.city.dazaifu.lg.jp/soshiki/11/3419.html> 2022 年 10 月 11 日閲覧
- 片田江綾子 (2014) 「家族教育における「倫理的な指導不安」：生徒のプライバシー保護と家庭科教員の不安をめぐる現象学的研究」 『日本家庭科教育学会誌』 第 56 巻 第 4 号 pp.194-202
- 警察庁 (2021) 「令和 2 年におけるストーカー事案及び配偶者からの暴力事案等への対応状況について」 [https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/stalker/R2\\_STDVkouhousiryoku.pdf](https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/stalker/R2_STDVkouhousiryoku.pdf) 2022 年 6 月 10 日閲覧
- 精選版 日本国語大辞典 (2001) 「ドメスティック・バイオレンス」 小学館 <https://kotobank.jp/word/%E3%83%89%E3%83%A1%E3%82%B9%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%83%E3%82%AF%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%82%B9-584942> 2022 年 12 月 21 日閲覧
- 千葉県 (2021) 「DV (ドメスティック・バイオレンス) に対する県民意識について (令和 2 年度第 1 回インターネットアンケート調査)」 <https://www.pref.chiba.lg.jp/jika/dv/shiryoku/r2dv-internetanke-to.html> 2022 年 10 月 10 日閲覧
- 内閣府 (2020) 「満足度・生活の質に関する調査」に関する第 4 次報告書 (一括版) <https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/pdf/report04.pdf> 2022 年 6 月 10 日閲覧
- 内閣府男女共同参画局 (2019) 「配偶者からの暴力に関するデータ」 [https://www.gender.go.jp/policy/no\\_violence/e-vaw/data/pdf/2019soudan.pdf](https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/data/pdf/2019soudan.pdf) 2022 年 12

月 10 日閲覧

日本大百科全書(ニッポニカ) (1994) 「ハインリッヒの法則」 小学館 <https://kotobank.jp/word/%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%AA%E3%83%83%E3%83%92%E3%81%AE%E6%B3%95%E5%89%87-178833> 2022 年 11 月 27 日閲覧

NotAlone 「活動団体一覧」 <https://notalone-ddv.org/org/> 2022 年 12 月 5 日閲覧

八尾市 (2022) 「DV (ドメスティック・バイオレンス)」 <https://www.city.yao.osaka.jp/0000054132.html> 2022 年 12 月 20 日閲覧

